

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

この会報を皆様が手にする頃、米国では第148回ケンタッキークイーンズ（d8.5F）も8.4馬身差で制して重賞初制催が目前に迫っている。今年は日本でも馬券発売がありそうで、日本の競馬ファンもおおいに盛り上がっていることと思う。ケンタッキークイーンズのフルゲートは20頭だ。昨年の9月から、お膝元の米国を中心に「ケンタッキークイーンズ・ポイント指定競走」というシリーズが開催されていて、このシリーズを通じて獲得したポイントの多い方から20頭に、優先的に出走権が与えられるシステムになっている。新谷功一厩舎のクラウンプライド（牡3歳）、父リーチザクラウンは、このシリーズに組み込まれた3月26日のG2 UAEダービーを制して100ポイントを獲得し、出走枠に入っている。今月のこのG2で主役に取り上げるのは、通算で164ポイントを獲得し、ポイントランキング首位に立つてケンタッキークイーンズに向かうエピセンター（牡3歳、父ノットディスクイーンズ、母セントターナー）だ。

ケンタッキーのティラーメイドで供用されている父の、2世代目の産駒の1頭となるのがエピセンターだ。現役時代のノットディスクイーンズ（父ジャイアンツコーズウェイ）は、デイル・ローマン厩舎からデビュート。2歳8月にエリスパークのメイドン（d8F）を10馬身差で制し、デビューウォーで初勝利をあげると、続いて参戦したチ

ヤーチルダウンズのG2イロコイS（d8.5F）も8.4馬身差で制して重賞初制覇。次走は、サンタナータが舞台だったG1 BCジユヴェナイル（d8.5F）に挑み、勝ち馬クラシックエンパイアに首差及ばぬ2着に惜敗している。

G1 BCダートマイル（d8F）を含む2つのG1を制したアムズマップの半弟という血統的魅力もあるノットディスクイーンズは、翌年のケンタッキークイーンズの有力候補に数えられたが、BCのレース後に右前脚の靭帯損傷が発覚。2歳の11月に早々に引退が決まり、3歳となつた17年に種牡馬入りした。

20年にデビューした初年度産駒から、G1デルマーデビュータント（d7F）勝ち馬、プリンシスヌースアが登場。2世代目からもエピセンターの他に、3月5日にガルフストリームパークで行なわれたG2フォンテンオヴユースS（d8.5F）で1・2着したシンプリフィケーション、インデュータムが出現。注目の若手種牡馬となつたノットディスクイーンズは、初年度1万5千ドルだった種付け料が、今季は4万5千ドルと3倍に急騰している。

エピセンターの母サイレントキャンドゥイーは、現役時代、5勝を挙げた他、アーリントンパークのG3パツカーラップS（芝9F）で3着となつて、その4番仔となるのが、エピセンターだ。キーンランド9月1歳市場に上場されると、26万ドル（当時のレートで約2752万円）で購買され、ステイーヴ・アスマツセン厩舎に入厩した。エピセンターは2歳9月にデビュー。11月にチャーチルダウンズのメイドン（d8F）を制し、デビューウォーで初勝利をあげると、3戦目以降はフェアグラウンズで続戦。ガランナンナS（d8.5F）を制し、2勝目を挙げた後、重賞初挑戦となつたG3ルコントS（d8.5F）は2着に敗れたが、続くG2リズンスターS（d8.5F）を制し重賞初制覇。そして、3月26日に行なわれたG2ルイジアナダービー（d9.5F）も勝つて、重賞2連勝でダービーに向かうことになった。

チャーチルダウンズを経験していることが、大きな強みと見られている一方、同馬を管理するアスマツセン師は、北米歴代最多となる9600以上の勝ち星をあげ、既に殿堂入りも果たしている伯楽だが、ケンタッキークイーンズはこれまで23頭を出走させて、一度も勝つことがないのである。

アスマツセン調教師が悲願のダービー制覇を果たせるかどうか。ケンタッキークイーンズでは、クラウンプライドとともに、エピセンターのレースぶりにも注目したい。

エピセンターの母サイレントキャンドゥイーは、現役時代、5勝を挙げた他、アーリントンパークのG3パツカーラップS（芝9F）で3着となつて、その4番仔となる